

CX週間展望(11月29日~)

# 週間展望(11/29~12/5)

~ WEEKLY FORECAST ~

調査課

菊川 弘之



PHOTO by KIKUKAWA

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

## 週間展望(11/29~12/5)

~ドル円~

調査課

菊川 弘之



### 【前週レビュー】

- 先週レポートで「115円の上値抵抗線を上抜くまでは、112円~115円の狭いレンジ相場が継続見通し。一方、115円を上抜いてくると、118円~120円が視野に入る。」としたが、先週は、バイデン米大統領がパウエルFRB議長を再指名し、よりハト派と見られていたブレイナード理事を副議長に指名したことで、利上げ時期が前倒しになるとの思惑から、米金利上昇、ドル買いで始まった。週初の113円台から24日には115円台半ばまで大幅続伸。終値ベースでも115円台を維持した。

- ドイツでのコロナ感染状況の悪化や、オーストリアでのロックダウン導入とともに欧州経済への不透明感がユーロ売り・ドル買いの動きとなった事も、ドル指数が年初来高値更新の一因となった。

### リスク回避で、早期利上げ思惑後退

- ただし、週末にかけて、南ア新型コロナ変異株報道をきっかけに、リスク回避の株安が広がり、ドル円は115円台から113円台へ暴落となっている。

- 先週末のドル円は、急反落。米長期金利が大幅に低下し、日米金利差が縮小した事で円高ドル安が進行。南アフリカで新型コロナウイルスの新たな変異種が見つかり、世界景気の先行き不透明感から主要国の株式相場の急落もあってリスク回避姿勢が強まった。

- デルタ株は発生から流行まで3ヶ月要したが、南ア型は僅か2週間と早い。ただし、新型株は南アのハウテンで拡大中だが、この街の人口密度は同国平均値より17.3倍多く、拡大スピードデータは正しくない可能性もある。

- CFTC建玉明細(11/23現在)は、サンクスギビングデーに伴い、29日(日本時間の30日朝8時頃)に延期。

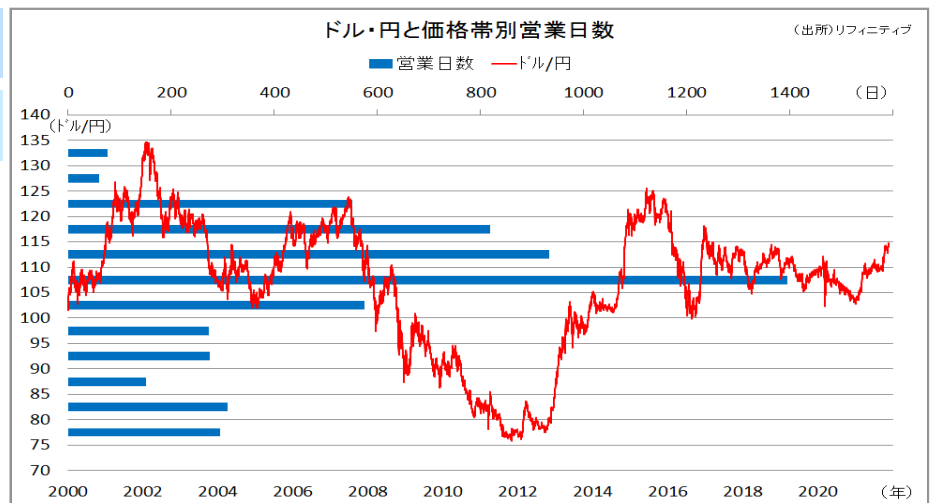
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

## 週間展望(11/29~12/5)

~ ドル円 ~

調査課

菊川 弘之



### 【今週見通し・戦略】

- 米国のインフレ率が約30年ぶりの高水準に達し、雇用増のペースも加速する中、24日に発表された11月のFOMC議事要旨では、資産購入ペース縮小に柔軟性を持たせることの必要性が強調され、インフレ率の高止まりは一時的な要因としつつも「多くの参加者がインフレの持続的上昇の証拠を確認」とした。
- 資産購入ペース縮小を早期に終了し、来年半ばの利上げ期待が高まっていた中、パウエル議長の再任決定後の米長期金利上昇を受けて、ドル円は115円台乗せとなったが、南アフリカで新型コロナウイルスの変異株が検出されたことで、26日のアジア欧米ともに株価は急落した。ドル円も一気に113円台までの暴落となった。
- サンクスギビングデーの薄商いに伴う、オーバーシュートの可能性もあるものの、新たな変異株の特性は感染力が高いこと以外是不透明で、ワクチン効果や、致死率・重症度化率などが判明してこない、リスクオンからの良い金利上昇にはなり難い地合い。
- オミクロン株はデルタ株よりも感染力が強い可能性が指摘されている。オミクロン株はすでにアフリカ以外でも見つかっており、既に他の国々にも広がっている可能性もある。
- 前週末は、リスク回避の円買いが勝ったが、感染再拡大が欧州中心となるなら、リスク回避のドル買いも加わり、ドル円は狭いレンジ相場入りの可能性も。
- 105-115円水準は、ドル円にとって2000年以降で滞留時間の長い居心地の良い水準。

### 変異株の特性判別が焦点

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。



# 週間展望(11/29~12/5)

## ~ 貴金属市場(金: GOLD) ~

調査課

菊川 弘之



**【今週見通し・戦略】**

- 足もとでは、8月安値を起点とした上昇トレンドと重なる一目均衡表の雲に下支えられている状態だ。相次ぐ雲のねじれの時間帯(11月末~12月初旬)で、底打ち反転できるか否かがテクニカル面からの焦点。既に、8月安値~11月高値までの上昇に対する半値押しを達成している。同水準は価格帯別出来高の厚い下値支持である。もう一段の押し目があっても、61.8%押し(1753.7ドル)水準では、バーゲンハンティングも出てきそう。10月の中国の香港経由での金純輸入量は、前月から56%増え、2018年6月以来の高水準となった。価格下落で11月も金輸入が増加しそう。
  - バーナンキショック以降の「テーパリングから利上げ」に至る過程では、テーパリング開始で「金価格上昇」、その後、利上げ観測の高まりから押し目を付けるも、利上げ開始と共に「金価格は上昇」に転じた。
  - 前回は、テーパリング開始から利上げまでは2年ほど時間があったが、今回は、インフレ懸念もあり、この期間がかなり短縮されそうだが、今回のテーパリングで急伸した金価格が、短期間で急落した理由の一つであろう。
- 損失補てん売り後は、買い直されそう**
- 11月からのテーパリングが決まったとは言え、前回のテーパリング時と比べて、資産規模は大きく、いわゆるジャブ付き相場の弊害は大きくなっている。100年に一度の金融危機が頻発する中、過去の事例は参考になるものの、タイムスパンは、かなり短く、かつ大きく繰り返されると考えた方が良くもかもしれない。
  - パウエルFRB議長の再任で、利上げ観測が高まり、金の戻りは売られたものの、変異株の感染次第では、金融市場の暴落に伴う損失補てん的な売りをこなした後は、改めて金は買い直されそう。今後、長い下ヒゲや、長大陽線などのチャート上の底打ちが確認できれば、改めて買い主体の戦略・戦術を考えたい。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

## 週間展望(11/29~12/5)

### ~ 貴金属市場 (白金 : Platinum) ~

調査課

菊川 弘之



#### 【前週レビュー】

9月安値を起点とした  
上昇チャネル形成中

- 先週レポートで「JPX白金標準先物も、9月安値を起点に上昇トレンド形成中。11月17日にザラバで心理的節目4000円を上抜くも、戻りは売られて上ヒゲ陰線引け。同水準は7月にも抵抗として機能した。9月安値を中心とした左右相似形を形成しており、フラクタルな状況が継続するなら、6月~7月に保合った流れとなる。次に変化が起こりやすい基本数値・対等数値の時間帯は、11月22日の週に集中する。10月28日安値(3662円)を終値ベースで割り込むと、テクニカル的な売り圧力が高まりやすい。短期的には、同水準の攻防が焦点。」
- 「金・白金」の鞘は、「金買い・白金売り」の状態。》としたが、先週のNY白金(1月限)は、欧州の新型コロナウイルスの感染増加で制限措置が再導入されたことに加え、パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長続投でドル高に振れたことが圧迫要因になり、大幅統落となった。
- オーストリアが新型コロナウイルスの感染増加を受けて22日から全国的なロックダウン(都市封鎖)を再導入し、スロバキアもロックダウン実施を発表。ドイツで新規感染者が過去最多となっており、南アで新型コロナウイルスの新たな変異株を検出され、英国が渡航制限を発表した。
- 「金・白金」の鞘は、「金買い・白金売り」継続。
- 先週末のNY白金(1月限)は、反落。アジア株に続き、欧州株も大幅安となったことや、金が一転して売り圧力が強まると、マイナスサイドに沈み、20ドルを超える下げを強いられた。
- CFTC建玉明細(11/23現在)は、サンクスギビングデーに伴い、29日(日本時間の30日朝8時頃)に延期。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

# 週間展望(11/29~12/5)

## ~ 貴金属市場 (白金: Platinum) ~

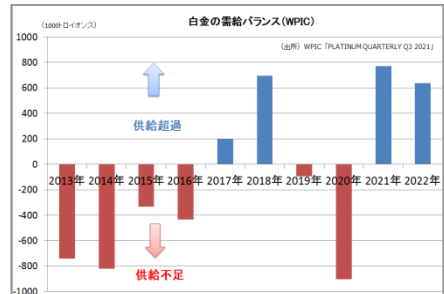
調査課

菊川 弘之



### 【WPIC四半期報告】

■ ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル(WPIC)四半期報告によると、2021年と2022年のプラチナは供給過剰になるとの見通しが示されたが、自動車触媒需要や工業用需要は増加するとの予想され、強弱まちまちの内容となった。



### 【今週見通し・戦略】

株の下げ止まりを確認したい

- NY白金(1月限)は、9月安値を起点とした上昇チャネル割れで、下げ加速。ダブルトップを完成。9月安値~11月高値までの上昇に対する61.8%押しを達成。心理的節目900ドル~全値戻しが意識される流れ。まずは、株価の下げ止まりを確認したい。
- JPX白金標準先物も、変化が起こりやすい基本数値・対等数値の時間帯(11月22日の週)に、10月28日安値(3662円)をみ、テクニカル的な売り圧力が高まりやすい。
- 「金・白金」の鞘は、「金買い・白金売り」の状態が継続。鞘のボリンジャーバンドはバンドウォークを形成中。リスク回避から金は買われても、白金は売られやすい。
- 電気分解で水素を生成する際の電極に使う白金は、燃料電池車(FCV)や、水素の活用が進めば、需要が増えるとの見方も強い。安値圏では、南アの政情不安(地方選挙で与党のアフリカ民族会議(ANC)が惨敗)や、コロナ感染再拡大などが、供給リスクとして、後付け的に材料視される可能性も。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

# 週間展望(11/29~12/5)

## ~ ゴムRSS 3号先物 ~

調査課

菊川 弘之



### 【前週レビュー】

- 先週レポートで「ゴム相場と相関の高い原油市場が、前週末に各国の戦略備蓄放出懸念からネックラインを割り込み、下げ加速となっており、JPXゴムも下値トライから始まりそう。JPXゴム先限は、ネックライン(11/10安値:227.4円)を割り込むと、テクニカル面からの売り圧力が高まる。ドル円が115円を上抜けなければ、下値の限度を試す流れへ。
- ただし、季節的には月間で最も強気優位な12月を控えており、減産期限月に関しては、テクニカル的な下落局面は、底打ち確認後の買い仕込みとしたい」としたが、先週の先限は、上海ゴム高に加えて、パウエルFRB議長再任を受けた115円台への円安ドル高進行を背景に堅調推移となった。
- 週央に中心限月に大口の買いが入ると急騰、先限もGAPを空けて263.1円(11/25高値)まで続伸となったが、週末に上海ゴムが急落、南アでの新型コロナ変異種報道を受け、株式市場が急落する中、GAPダウンで急反落。アイランドトップを形成した。

### 【今週見通し・戦略】

- 全国生ゴム営業倉庫在庫は、11月10日現在12,885トン(前旬比238トン減)。11月上旬の入出庫は入庫792トン、出庫1,030トン。
- 米感謝祭休場で薄商いの中、南アで確認された新型コロナウイルスの変異株発生を受け、世界景気への影響が懸念され、金融市場、商品市場全般にリスクオフの動きが加速しており、一旦は、下値試しが先行しそう。香港や欧州の一部でも変異種の感染者が見つかっており、変異を繰り返したウイルスは感染力が強いとの指摘もあり、ワクチンの有効性などを含めてまだ不透明な点が多い。
- 北京オリンピックを控えた中国での感染状況にも注意したい。12月は月間ベースで最もゴムの強気の優位性の高い時間帯。安値売込みは避けたい。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

CX週間展望(11月29日~)

## 週間展望(11/29~12/5)

### ～ 穀物市場 (大豆・コーン) ～

調査課

菊川 弘之



#### 【前週レビュー】

- 先週レポートで「米農務省需給報告以降、ハーベストロー(収穫期の安値)確認後の反発局面となっているが、今週は原油市場の調整安に追随しそう。サンクスギビングデーの休場も控えており、ポジション調整は進みやすい。2番底を探る流れへ。」としたが、先週のシカゴ穀物は、大豆油価格の高止まりが下支え要因となる一方、ブラジルの大豆作付けが平年を上回るペースで行われて、順調な状態にあることが上値を抑制する要因になっている。コーンは、小麦がほぼ全限月にわたり一代高値を更新し、上値追いとなったことや、原油が高値圏で堅調に推移したことが支援材料。
- 先週末のシカゴ大豆(1月限)は、大幅続落。南アフリカでの異種株確認の報でリスクオフの動きが強まり、ギャップを空けて急落寄りのあと軟調な展開となり、大幅安水準で取引を終えた。
- シカゴコーン(12月限)は上伸。南アフリカでの異種株確認に端を発したリスクオフの動きで米株や原油が暴落したことで、ギャップを開いて安寄りしたものの、その安値から急反発する展開となった。

#### ■ 週間純輸出成約高(11月18日までの週)

大豆: 157万0500トン(事前予想レンジ: 90万~180万トン)

コーン: 151万9200トン(事前予想レンジ: 95万~200万トン)

#### 【今週見通し・戦略】

- ラニーニャ現象が発生した年の12月から翌年2月は、ブラジル北部で多雨、低温となる傾向があり、生育に悪影響が出る可能性はあるものの、目先は、南アで確認された新型コロナウイルスの変異株発生を受けた金融市場の波乱が収まるまでは、値頃感は無用の展開。南米産の順調な生育もあり、新規の買いは、金融市場の落ち着きを待ってからが無難。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

# 週間展望(11/29~12/5)

## ~ 原油市場 (ドバイ原油・CME原油指数) ~

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

■ 先週レポートで「11月29日に予定されているイランと米国の核合意再建に向けた間接協議も、早々に合意に至る可能性は低い。安値売込みは避けたい。戦略備蓄放出の規模次第では、V字の戻りもあるだろう」としたが、バイデン米大統領は23日に、日本や中国、インド、韓国、英国と協調して石油の備蓄を放出すると発表した。これらの動きを受けて、NY原油(1月限)は、ネックライン(11月4日安値)を割り込んでダブルトップ完成、下げ加速した。

戦略備蓄放出

■ 米政府は今後、数ヶ月かけて5000万バレルの戦略備蓄を放出すると発表した。市場予想より小さい規模との受け止めから、8月安値~10月高値までの上昇に対する38.2%押し(75.0ドル)で下支えられて反発した。

■ 米エネルギー情報局(EIA)週間在庫統計で、原油在庫が減少予想に反して、増加したことや、感謝祭(サンクスギビングデー)の祝日で休場となるため持ち高調整の売りも出やすかったが、石油消費国による備蓄放出や、欧州における新型コロナウイルスの流行に対する「OPECプラス」の対応が注目され、安値を売り込む動きは避けられた。

■ 先週末のNY原油(12月限)は、大幅続落。世界保健機関(WHO)がこの日、南アで確認された新型コロナウイルスの変異株について、「懸念すべき変異株」に分類すると発表した。世界景気や原油需要への影響が懸念され、ダウ平均株価が一時1000ドルを超える下げ幅となるなど金融市場、商品市場全般にリスクオフの動きが加速したことで、原油も大きく売られる展開となった。

■ CFTC建玉明細(11/23現在)は、サンクスギビングデーに伴い29日(月)に延期。

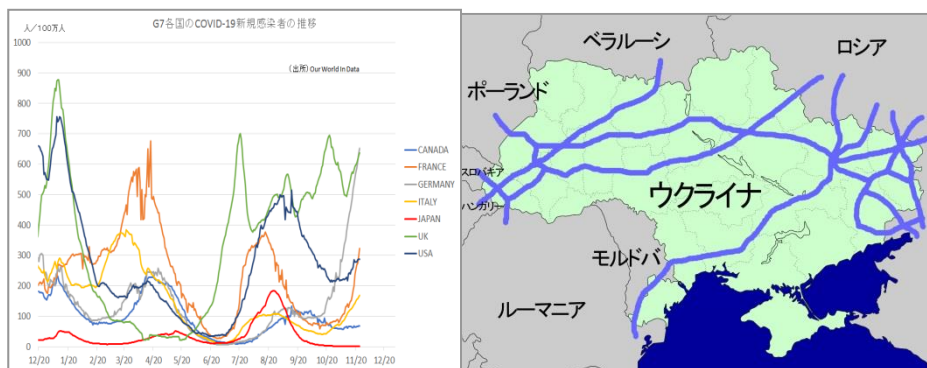
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

## 週間展望(11/29~12/5)

### ~ 原油市場 (ドバイ原油・CME原油指数) ~

調査課

菊川 弘之



※各種報道から弊社作成

#### 【今週見通し・戦略】

- 12月2日に「OPECプラス」の閣僚会合が行われるが、主要国の戦略備蓄放出を受けて、増産停止を検討していると報じられている。南ア変異種発生でリスク回避の動きが高まっており、11月29日のイランと欧米の核合意復帰交渉の行方も不透明で、「OPECプラス」は、これらを見極めようとする動きも出てきそうだ。

#### ベラルーシは波乱要因

- また、サウジアラビア主導の連合軍は24日、イエメンの親イラン武装組織フーシ派の軍事目標に対して空爆を開始すると発表。イスラエルやサウジが、イランの核開発をいつまでも黙認するとは考え難い。更に、中東からベラルーシ経由で欧州へ流入する難民・移民が深刻な問題を引き起こしている。11月に入り、ベラルーシ・ポーランド国境地帯でポーランド治安部隊と難民・移民の激しい衝突があったが、ベラルーシはロシアと同盟関係にあり、ポーランドはNATO(北大西洋条約機構)の一員で、このまま状況が改善しないと、ベラルーシ軍とポーランド軍が衝突する危険性さえある。
- ベラルーシにはロシアが欧州向けに天然ガスを供給する主要パイプラインの一つが走る。2008年には、もう一つのパイプライン通過国であるウクライナ経由のガス輸送が止まり、多くの欧州国が深刻なエネルギー危機に陥った。ドイツが、ロシアからの天然ガスパイプライン「ノルドストリーム2」の承認手続きを一時停止したこともあり、再び天然ガスの供給懸念も浮上している。
- 原油市場の弱気要因として急浮上しているのが、南アフリカで新たな変異ウイルスが確認され、金融市場がリスク回避に傾いていることだ。世界的にロックダウンが再開するような事態となると、中東の地政学リスク等がなければ、10月高値が当面の天井候補となる。ポツワナ、イスラエル、香港で感染者確認済。変異性が強い場合、人流制限を実施しても次第に感染は拡まる可能性。デルタ株は発生から流行まで3ヶ月要したが、南ア型は僅か2週間と早い。

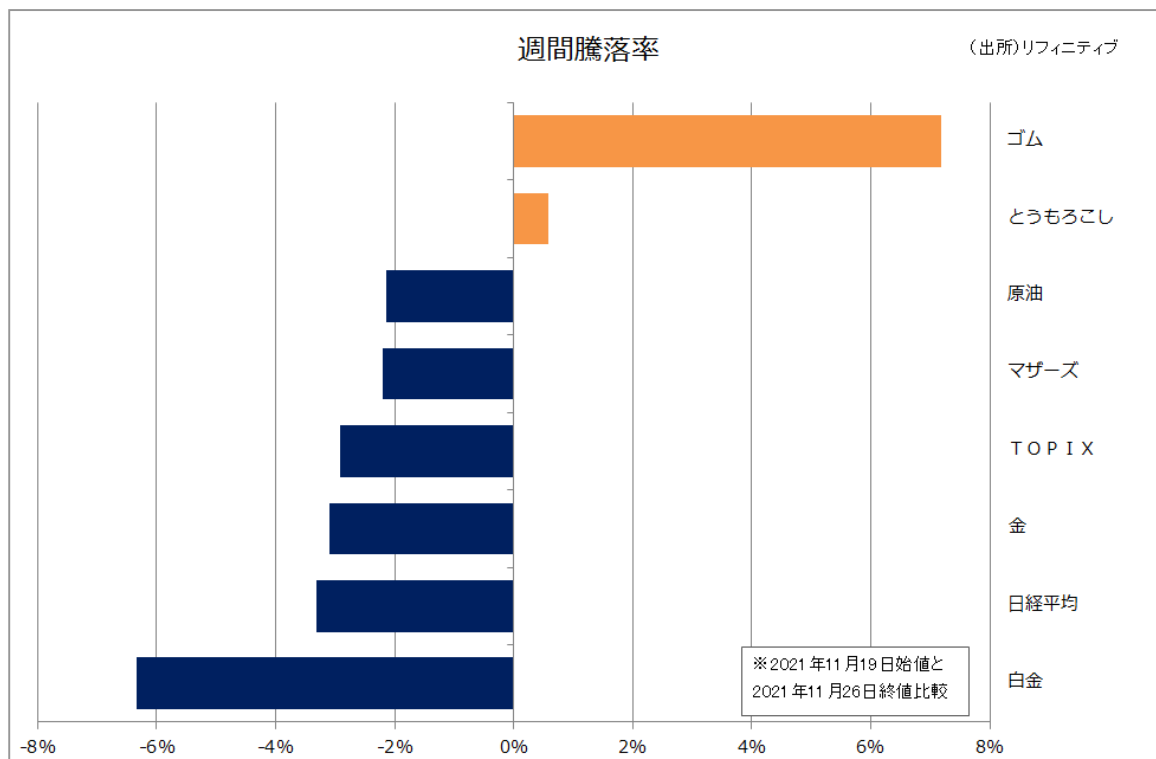
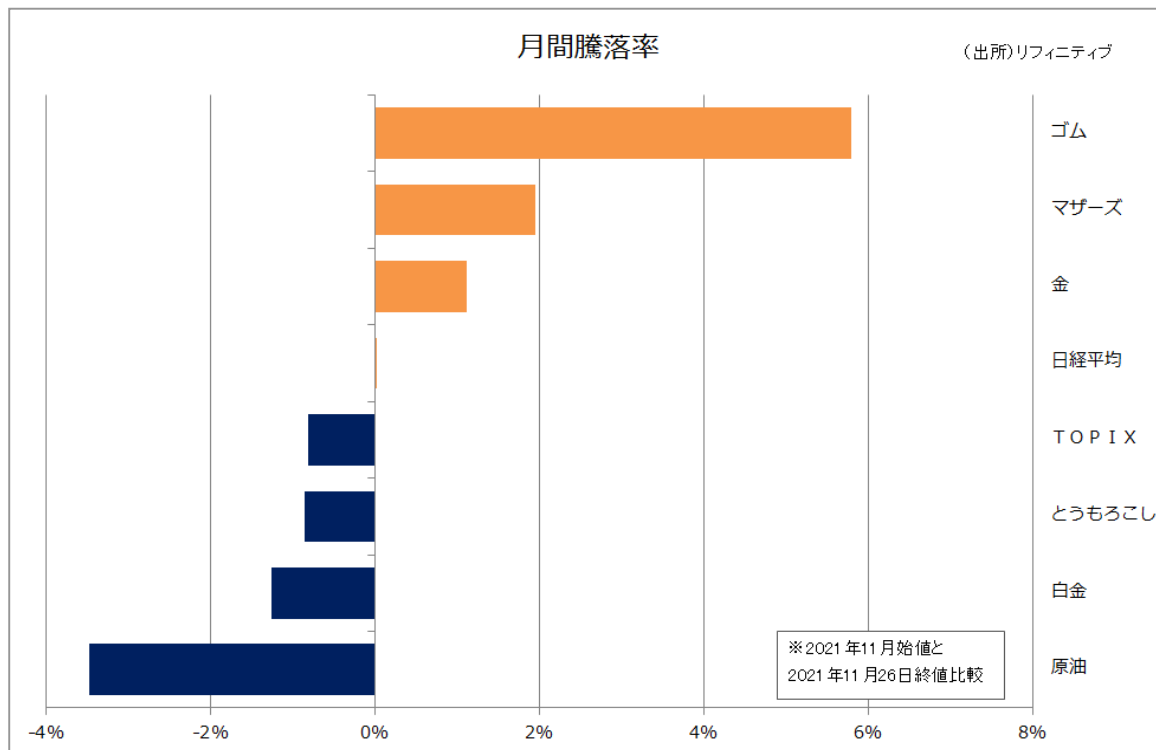
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

**【週間行事予定(11/22~12/5)】**

11月29日(月)	8:50	日本	10月	小売販売額(前年比)		
	18:30	英国	10月	英中銀 消費者信用残高	0.231(十億)	
	18:30	英国	10月	住宅ローン貸付額	9.524(十億)	
	18:30	英国	10月	住宅ローン承認件数	72.645(千)	
	19:00	ユーロ圏	11月	景況感指数	118.6	
	19:00	ユーロ圏	11月	製造業景況感指数	14.2	
	19:00	ユーロ圏	11月	サービス部門景況感指数	18.2	
	19:00	ユーロ圏	11月	消費者信頼感指数 確定値	-6.8	
	22:00	ドイツ	11月	消費者物価指数(CPI) 速報値(前月比)	0.5%	
	22:00	ドイツ	11月	消費者物価指数(CPI) 速報値(前年比)	4.5%	
11月30日(火)	22:00	ドイツ	11月	EU基準消費者物価指数(HICP) 速報値(前月比)	0.5%	
	22:00	ドイツ	11月	EU基準消費者物価指数(HICP) 速報値(前年比)	4.6%	
	5:30	米国	前週分	CFTC連玉明確		
	0:00	米国	10月	中古住宅販売契約約数(前月比)	-2.3%	1.0%
	8:30	日本	10月	有効求人倍率	1.16	
	8:30	日本	10月	失業率	2.8%	
	8:50	日本	10月	鉱工業生産 速報値(前月比) 季調値	-5.4%	
	10:00	中国	11月	国家统计局 製造業購買担当者景気指数(PMI)	49.2	
	14:00	日本	10月	新設住宅着工戸数(前年比)	4.3%	
	16:00	ドイツ	10月	輸入物価(前月比)		
11月30日(火)	16:00	ドイツ	10月	輸入物価(前年比)		
	16:00	英国	11月	ネーションワイド住宅価格(前月比)	0.7%	
	16:00	英国	11月	ネーションワイド住宅価格(前年比)	9.9%	
	17:55	ドイツ	11月	失業率増減 季調値	-39(千)	
	17:55	ドイツ	11月	失業率 季調値	5.4%	5.3%
	19:00	ユーロ圏	11月	EU基準消費者物価指数(HICP) 速報値(前年比)	4.1%	4.4%
	19:00	ユーロ圏	11月	EU基準消費者物価指数(HICP)(食品・エネルギー除) 速報値(前年比)	2.1%	
	23:00	米国	9月	ケース・シラー20(前月比) 季調値	1.2%	
	23:00	米国	9月	ケース・シラー20(前年比)	19.7%	
	23:45	米国	11月	シカゴ地区購買部協会景気指数	68.4	68.4
12月1日(水)	納会	日本	---	ゴムTSTR20 2021年12月限納会日		
	納会	日本	---	東京原油・石油スワップ2021年11月限取引最終日		
	納会	米国	---	NYヒーティングオイル2021年12月限納会		
	納会	米国	---	NYガソリン2021年12月限納会		
	0:00	米国	11月	消費者信頼感指数	113.8	110.7
	8:50	日本	Q3	財務省法人企業統計(前年比)	5.3%	
	10:45	中国	11月	財新 製造業購買担当者景気指数(PMI) 改定値	50.6	
	16:00	ドイツ	10月	小売売上高(前月比) 実質	-2.5%	
	16:00	ドイツ	10月	小売売上高(前年比) 実質	-0.9%	
	17:55	ドイツ	11月	マークイット/BME 製造業購買担当者景気指数(PMI)	57.6	
12月1日(水)	18:00	ユーロ圏	11月	マークイット 製造業購買担当者景気指数(PMI) 改定値	58.6	58.5
	18:30	英国	11月	マークイット/CIPS 製造業購買担当者景気指数(PMI) 改定値	58.2	
	22:15	米国	11月	ADP 民間部門雇用者数	571(千)	480(千)
	23:45	米国	11月	マークイット 製造業購買担当者景気指数(PMI) 改定値	59.1	
				OPECプラス閣僚級会合(OPEC加盟国のみ)		
	0:00	米国	10月	建設支出(前月比)	-0.5%	0.6%
	0:00	米国	11月	ISM 製造業購買担当者景気指数(PMI)	60.8	61.0
	0:00	米国	11月	ISM 製造業価格指数	85.7	
	19:00	ユーロ圏	10月	生産者物価指数(PPI)(前月比)	2.7%	
	19:00	ユーロ圏	10月	生産者物価指数(PPI)(前年比)	16.0%	
12月2日(木)	19:00	ユーロ圏	10月	失業率	7.4%	7.3%
	22:30	米国	11月22日, 週次	新規失業保険申請件数	199(千)	
	22:30	米国	11月15日, 週次	継続失業保険受給総数	2,049(百万)	
				OPECプラス閣僚級会合		
	10:45	中国	11月	財新 サービス業購買担当者景気指数(PMI)	53.8	
	17:55	ドイツ	11月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数(PMI)	53.4	
	17:55	ドイツ	11月	マークイット 総合購買担当者景気指数(PMI) 改定値	52.8	
	18:00	ユーロ圏	11月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数(PMI) 改定値	56.6	54.7
	18:00	ユーロ圏	11月	マークイット 総合購買担当者景気指数(PMI) 改定値	55.8	
	18:30	英国	11月	マークイット/CIPS サービス部門購買担当者景気指数(PMI) 改定値	58.6	
12月3日(金)	18:30	英国	11月	準備資産総額	200,923.27(百万)	
	19:00	ユーロ圏	10月	小売売上高(前月比)	-0.3%	
	19:00	ユーロ圏	10月	小売売上高(前年比)	2.5%	
	22:30	米国	11月	非農業部門雇用者数	531(千)	563(千)
	22:30	米国	11月	民間部門雇用者数	604(千)	530(千)
	22:30	米国	11月	失業率	4.6%	4.5%
	22:30	米国	11月	平均賃金(前月比)	0.4%	0.4%
	22:30	米国	11月	平均賃金(前年比)	4.9%	5.0%
	22:30	米国	11月	平均週労働時間	34.7	34.7
	23:45	米国	11月	マークイット 総合購買担当者景気指数(PMI) 改定値	56.5	
12月4日(土)	23:45	米国	11月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数(PMI) 改定値	57.0	
	23:45	米国	11月	マークイット 総合購買担当者景気指数(PMI) 改定値	56.5	
	23:45	米国	11月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数(PMI) 改定値	57.0	
	0:00	米国	10月	製造業新規受注(前月比)	0.2%	0.5%
	0:00	米国	11月	ISM 非製造業総合指数	66.7	65.2
	0:00	米国	10月	製造業新規受注(前月比)	0.2%	0.5%
	0:00	米国	11月	ISM 非製造業総合指数	66.7	65.2
	12月5日(日)					

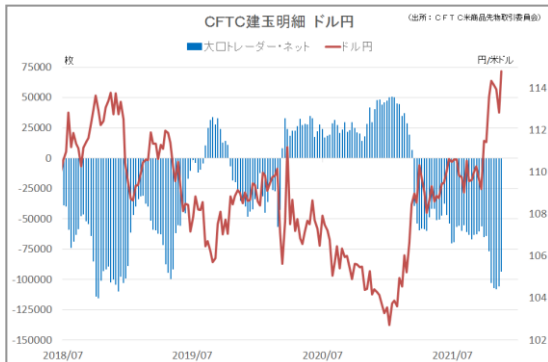
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に十全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社へ帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

## 【騰落率(月間・週間)】

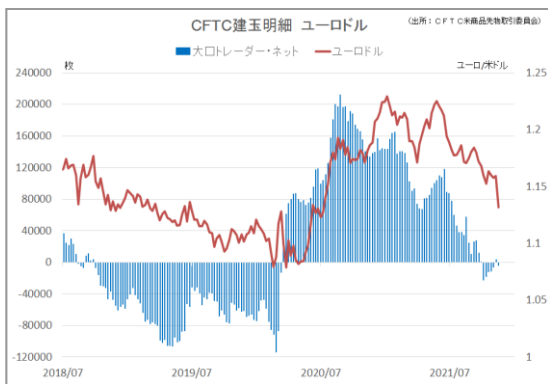


当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

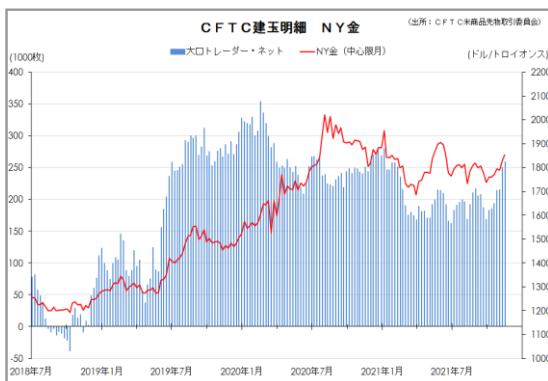
【CFTC建玉明細】 CFTC建玉明細(11/23現在)は、サンクスギビングデーに伴い29日(月)に延期。  
 グラフ・表は前回発表分です。



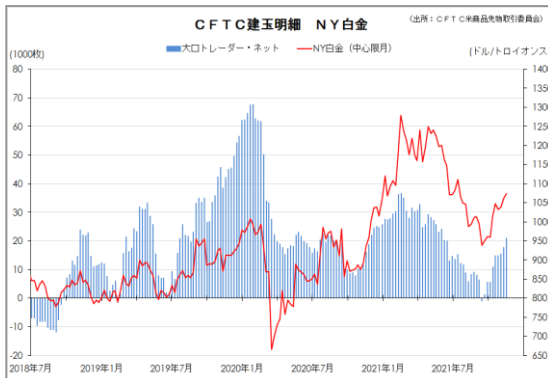
ドル円				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/10/19	35,713	138,447	-102,734	114.36
2021/10/26	31,487	138,523	-107,036	114.14
2021/11/2	20,337	127,961	-107,624	113.95
2021/11/9	16,440	121,791	-105,351	112.85
2021/11/16	24,635	117,761	-93,126	114.82
前週比	8,195	-4,030	12,225	1.97



ユーロドル				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/10/19	193,320	205,427	-12,107	1.1632
2021/10/26	196,880	208,136	-11,256	1.1595
2021/11/2	191,496	197,634	-6,138	1.1577
2021/11/9	192,544	188,771	3,773	1.1591
2021/11/16	198,181	202,007	-3,826	1.1319
前週比	5,637	13,236	-7,599	-0.0272



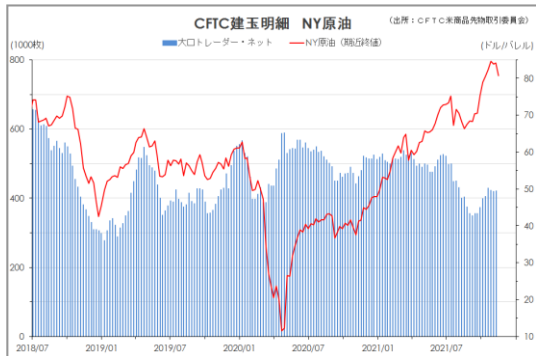
NY金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/10/19	299,882	106,533	193,349	1770.5
2021/10/26	313,646	99,086	214,560	1793.4
2021/11/2	311,091	95,962	215,129	1789.4
2021/11/9	341,111	90,930	250,181	1830.8
2021/11/16	360,529	100,749	259,780	1854.1
前週比	19,418	9,819	9,599	23.3



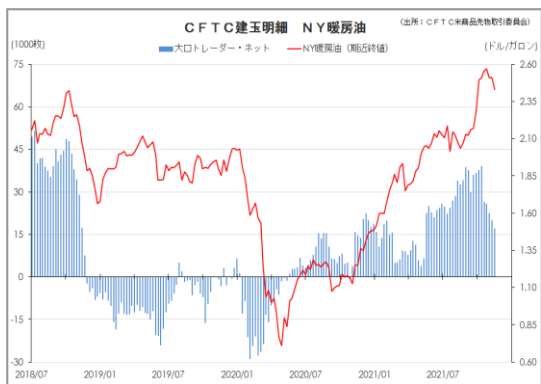
NY白金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/10/19	30,917	16,073	14,844	1047.1
2021/10/26	29,445	14,543	14,902	1032.9
2021/11/2	28,870	13,506	15,364	1039.3
2021/11/9	30,260	12,630	17,630	1061.4
2021/11/16	33,266	12,253	21,013	1074.5
前週比	3,006	-377	3,383	13.1

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

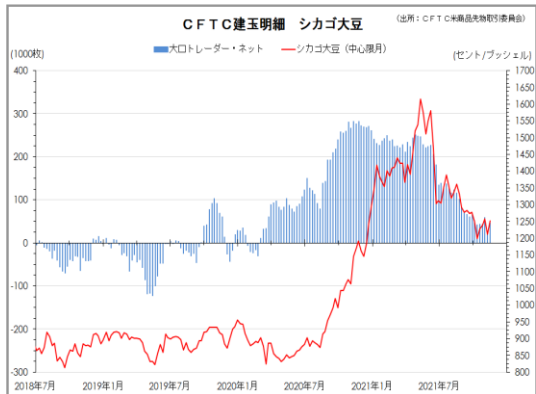
【CFTC建玉明細】 C F T C 建玉明細 (11/23現在) は、サンクスギビングデーに伴い29日(月)に延期。グラフ・表は前回発表分です。



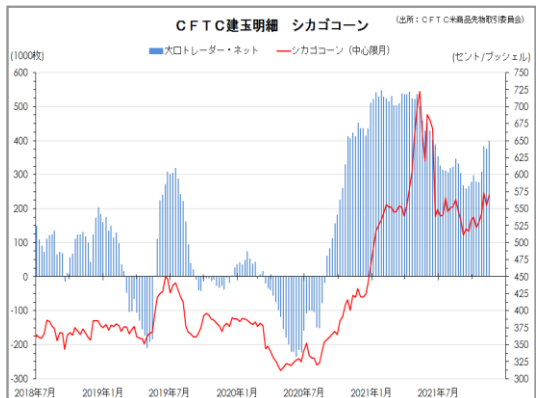
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/10/19	565,720	136,126	429,594	82.44
2021/10/26	550,171	126,453	423,718	84.65
2021/11/2	548,631	129,338	419,293	83.91
2021/11/9	552,579	131,267	421,312	84.15
2021/11/16	510,169	94,384	415,785	80.76
前週比	-42,410	-36,883	-5,527	-3.39



日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/10/19	68,516	42,075	26,441	2.5517
2021/10/26	68,785	42,994	25,791	2.5685
2021/11/2	62,233	39,849	22,384	2.5082
2021/11/9	54,200	34,178	20,022	2.5081
2021/11/16	53,501	36,472	17,029	2.4309
前週比	-699	2,294	-2,993	-0.0772



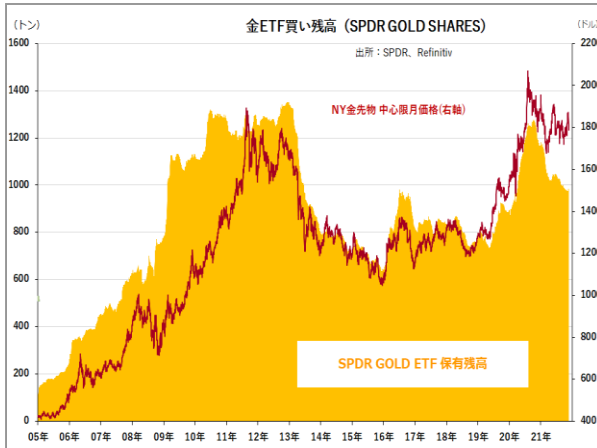
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/10/19	138,576	95,035	43,541	1228.00
2021/10/26	126,049	82,819	43,230	1238.00
2021/11/2	135,938	77,182	58,756	1256.25
2021/11/9	123,904	96,320	27,584	1212.00
2021/11/16	132,364	85,447	46,917	1251.25
前週比	8,460	-10,873	19,333	39.25



日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/10/19	390,081	113,052	277,029	530.25
2021/10/26	404,890	97,080	307,810	543.50
2021/11/2	482,734	99,625	383,109	573.00
2021/11/9	476,313	101,015	375,298	554.75
2021/11/16	504,851	105,665	399,186	571.00
前週比	28,538	4,650	23,888	16.25

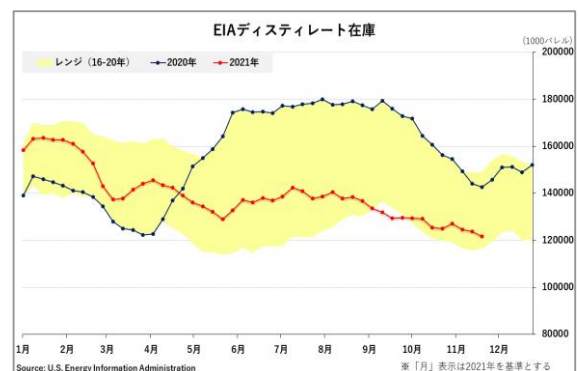
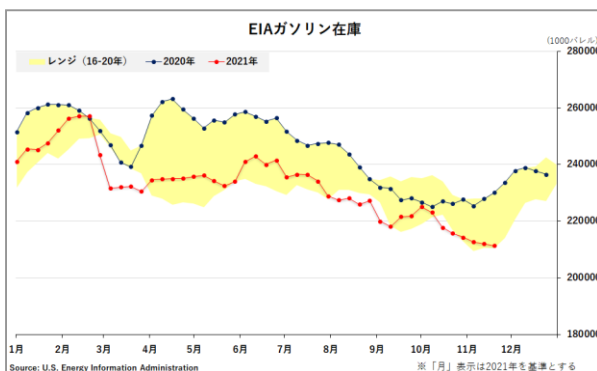
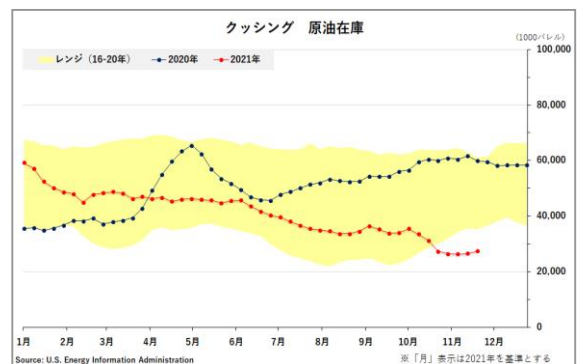
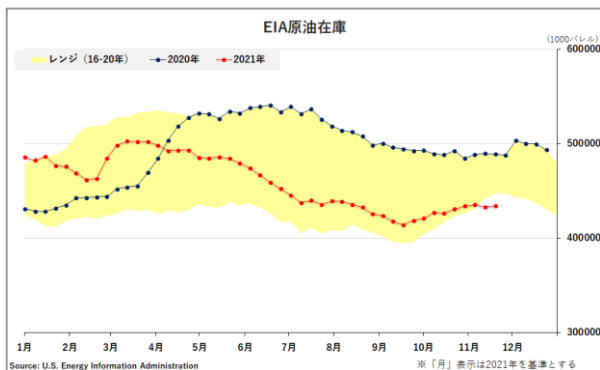
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

## 【金ETF (SPDR)】



日付	金保有高(トン)	前営業日比
2021/11/26	992.85	+1.74
2021/11/24	991.11	±0
2021/11/23	991.11	+6.11
2021/11/22	985.00	±0
2021/11/19	985.00	+8.13
2021/11/18	976.87	±0
2021/11/17	976.87	+0.88

## 【EIA在庫】



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

## 【留意事項】

弊社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等>日産証券株式会社（〒103-0014東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-11）

関東財務局長（金商）第131号金融商品取引業者商品先物取引業者

<加入協会>日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

---

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。